

2026年1月24日(土)

NPO法人築地居留地研究会定例研究報告会

築地居留地に生まれた東京中学院から関東学院まで

—バプテストミッションの宣教と教育—

花島光男

キリスト教の歴史と主な教派について

4世紀末 392年 キリスト教がローマ帝国の国教になる。

ローマ帝国はキリスト教の神に国家の繁栄、平和、安寧を祈る。

キリスト教会はローマ帝国に教会の保護、宣教の独占権、保障を求める。

聖権と俗権との有機的関係を教義として確立 アウグスチヌス『神の国』

395年 ローマ帝国の東西分裂

東ローマ帝国 コンスタンチノポリス

ギリシャ正教 ハリストス正教会、オーソドクス教会、東方教会

コンスタンチノポリス陥落後はモスクワ、ロシア革命後は各国ごとに正教会

西ローマ帝国 ローマ

ローマ・カトリック教会 普遍的、公同の教会 教会のゲルマン化

中世 神聖ローマ帝国 ヴァチカンの教皇のもとに統一された教会組織

プロテスタント教会

16世紀 ローマ・カトリック教会に対して各地で宗教改革運動開始

前期宗教改革 前期プロテスタンティズム

ルター ドイツ 改革急進派によるドイツ農民戦争 アウグスブルクの和議

ルター派、ルーテル教会 北ドイツ、北欧

英王ヘンリー8世 イギリス国教会 イングランド 聖公会 アングリカン教会

監督派教会 全国統一組織 司教、監督によるヒエラルキー

カトリックと同じ形態

(立教学院)

カルヴァン スイス、ジュネーブ 改革派 主に西欧・オランダ、フランスのユグノー

J.ノックス スコットランド 長老派

中会主義 地方ごとに中会を組織 中会による教会運営

(明治学院、東北学院)

会衆派教会 各個教会の独立運営 独立派、組合派

(同志社)

ピューリタン、水平派

16世紀の宗教改革により、ルター、カルヴァン、イギリス国教会などのプロテスタント各派が生まれるが、これらの初期プロテスタントは依然として中世の継続であった。統一された政治権力の下で一つの教会、支配者の教会のみが認められた。

後期宗教改革 後期プロテスタンティズム（洗礼主義）

政治体制に組み込まれた教会ではなく、自由に教会を組織する主張が生まれ、政治権力とは関わらない政教分離を主張、平和主義 法定教会より独立した私教会

宗教改革急進派 再洗礼派（アナバプテスト）、メノナイトなど  
バプテスト派 フレンド派（クエーカー）

政治体制に関わらない教会は、社会の秩序を乱す組織として迫害、弾圧を受ける。

バプテスト教会 16世紀英国に始まる。

再洗礼派の影響 個人の自覚的信仰、幼児洗礼の否定、浸礼

信教の自由、法定教会からの独立、政教分離、平和主義、信徒の平等、各個教会の独立

アメリカ ロジャー・ウィリアムス ロード・アイランド植民地

プロヴィデンスに第一バプテスト教会とブラウン大学（関東学院〈北〉、西南学院〈南〉）

バプテストとは 1952 新生会綱領宣言

1. 聖書を信仰と生活の基準とする。
2. 共同教会の信仰 共同教会は個別教会のうちにのみ現れる。
3. 個別教会の自主性、相互の連帯性
4. 信徒はイエス・キリストを唯一の主とし、バプテスマを受けた者。幼児洗礼は認めず。
5. バプテスマは浸礼
6. バプテスマと主の晩餐は象徴的礼典
7. 信徒は全て祭司であり平等。教会政治は合衆制
8. 信仰による良心の自由を重んずる。
9. 政教分離

ジョン・ウエスレー（18世紀） メソジスト教会 監督制（青山学院、関西学院）

プロテスタント・ミッションの多くはアメリカからで、アメリカでは独立当時から信教の自由が認められていた。

以後、近代までに多くの国で信教の自由 統一性はなく、各派が同時に並立共存  
それでもなお、バプテスト宣教師は、信教の自由、政教分離については強い信念とこだわりを持っていた。

## 日本でのキリスト教伝道

1859年 日本の開港によりキリスト教各派が宣教師を派遣

この当時の世界情勢（1860年代頃） アメリカ南北戦争、普仏戦争、ドイツ統一、フランス帝国の敗北、パリ・コミューン、スエズ運河開通、アメリカ大陸横断鉄道開通

## 横浜でのバプテスト伝道

ゴープル ベリー艦隊の水兵 神学校卒業後、宣教師として再来日  
最初期の来日 神奈川成仏寺へボンらとの比較  
日本で最初に聖書を翻訳発行  
N. ブラウン インド・アッサム伝道などの経験  
優れた言語能力で聖書の翻訳 捜真女学校の創立  
ベネット 横浜バプテスト神学校 神学教育開始  
初等中等教育の必要性を感じる。

ゴープルに始まるバプテストの宣教は、ほかの宣教師と一線を画した。

初期の宣教師は、最先端の文化を紹介し、政治、経済、文化等の指導派を養成し、接触したが、バプテスト宣教師の多くは一般庶民への宣教に努めた。  
バプテストとしてのこだわり 聖書の翻訳 浸礼

## 一般庶民を対象とした宣教

誰でも読めるように、ひらがなのみで表記した聖書を発行 「止無也久世無止與」  
教会 日本バプテスト横浜教会 横浜市中区寿町

日本人の牧師養成を目指し横浜バプテスト神学校を開設、さらに中等教育の必要より、築地に東京中学院を開設した。

## 築地居留地でのバプテスト

東京中学院（1895~99） 42, 43 番

『築地居留地 vol.4』 関東学院の源流 東京中学院（東京学院） 高野 進  
校長 渡瀬寅次郎 札幌農学校第1期生、麻布中学教頭  
教頭 E.W.クレメント 水戸中学校、第一高等学校英語教師  
最初の生徒6名 1898年最初の卒業生 渡部元、渡辺房吉  
貧弱な校舎で苦勞し、市谷・牛込左内坂に移転 士官学校裏  
記念碑 「東京中学院発祥の地」

1899 東京学院 神学部、高等科 中学部

専門学校令による高等科設置

キリスト教総合大学構想

1917 中学部については、左内坂の土地は狭く、ここでの発展は見込めず、新たな校地を求めて横浜移転を決める。院長に東京学院の坂田祐を採用する。

坂田 祐（さかた たすく）（1878・明治11～1969） 91歳

会津藩白虎隊隊長（日向内記）の孫 旧姓中村 秋田県で極貧生活より上京

軍隊入隊 千葉県国府台教導団 近衛騎馬隊

キリスト教入信 四谷教会で受洗 東京学院でタッピングの聖書研究に出席

陸軍士官学校で馬術教官 日露戦争従軍 黒溝台会戦 金鷄勲章を受ける

戦争の悲惨、残酷さを体験し、軍隊、武力の虚しさより反戦、平和を求める。

帰国後 学問を志し、第一高等学校入学、校長 新渡戸稲造 英語教師クレメント

坂田はすでに結婚し、同期生より12歳年長

東京帝国大学文学部哲学科に進学 1915卒業 37歳

高時代に内村鑑三の聖書研究会に出席

白雨会の結成 坂田祐、南原繁、高谷道男、星野鉄男等生涯の信仰の友となる

東京帝国大学卒業後、東京学院の教員 基督教教育同盟会の役員に就任

著書『恩寵の生涯』1966 待晨堂

バプテストより新たに横浜に創立する関東学院院長就任を乞われる。

内村鑑三に報告 「大いにやれ。ミッションの学校でも日本の学校であり、日本人を教育

する学校であることを忘れるな。日本の武士道を上台としたキリスト教を建学の精神に。

早く経済的に独立を。経済的独立なくして思想、信仰の自由なし」と激励された。

横浜の関東学院 1919年創立 C.B. テンネー 横浜三春台に校地取得

院長坂田祐 入学式で校訓「人になれ、奉仕せよ」を説く。

関東学院のキリスト教教育の精神

バプテスト教会の信仰と内村鑑三の無教会主義であった。

坂田においては、この両者に矛盾はなく、坂田が、関東学院であった。

1923年 関東大震災 校舎倒壊 3名の犠牲者

捜真女学校校舎を借用

1924年 第1回卒業式 坂田米国へ、バプテスト大会出席、再建資金の訴え

教育視察 シカゴ大学 宣教師の家族を訪問

1927年 財団法人関東学院 東京学院（神学部、高等学部）を併合

## バプテストの宣教師

バプテストミッションは、多くのすぐれた宣教師を日本に派遣した。彼等は各所で重要な働きをしている。主に旧シカゴ大学、ブラウン大学卒日本の軍国主義体制の中で命をかけた宣教であった。

フィッシャー（教会の法人化）、アクスリング（外国人初の名誉都民、賀川豊彦を世界に紹介）、タッピング（岩手で宮沢賢治と交流）、ベニンホフ（早稲田している。奉仕園）、

## コベル

絶対平和主義　　ラウシェンブッシュの社会的キリスト教運動  
セツルメント（神奈川浦島町）　　特高警察の手入れ　　学生逮捕  
軍事教練に反対、反戦、非戦を訴え、日本での教育活動禁止  
フィリピンに移動　　バプテスト宣教師は山中に避難  
日米開戦後、日本軍に発見され斬首  
コベルの次女は米本国の日本人収容所でボランティアとして日本人に奉仕

## グレセット

天文学者　東京学院時代より　大正学院（キリスト教総合大学構想）に参加  
日米開戦後も日本に残留、軟禁状態　　戦後、GHQ 海軍大尉の息子と再会  
衰弱療養のため帰国準備、帰国直前に厚木で死亡

## ホルトム

宗教学、日本人の宗教思想を研究　　神道学　日本の古典文学等を読みこなす。  
戦後GHQの政策に影響

## 戦時の関東学院と坂田

坂田は捜真女学校校長を兼務  
教練の配属将校を率制

「学校教育は文部省の所管であり、学校教練のみが軍部の所管であるから、教練以外の学科課程は文部省の指令がなければ、これを変更することはできない」と述べ、学校の宗教教育に関係したことには干渉されぬように、と牽制した。

## 横浜市内キリスト教学校との協力

県よりキリスト教学校へ寄附行為の変更要求など各種圧力に対して、協力団結して対処、坂田の学歴、軍歴には県も理解を示し、キリスト教学校は難局を乗り越えた。  
基督教教育同盟会の役員として同盟会組織の維持に努める。会計担当理事  
恵泉女学園、河井道との関係

世田谷にいて軟禁状態の宣教師を慰問

1944年 高商部は青山学院専門部と共に明治学院専門部に合同

航空工業専門学校設立 専門学校存続のため

1945年5月29日 米空軍による空襲 捜真女学校校舎炎上

捜真女学校に校舎を提供

関東学院中学部はその間、六浦に移転 この間に、新学制開始

新制中学校開始と共に共学を実施、高等学校に定時制を併設

戦後の教育改革期

坂田の友人、知人が教育刷新委員会に参加 南原繁、河井道、前田多門

アメリカ・バプテスト教会による戦後の支援

六浦校地の購入 経済的援助、宣教師の派遣

関東学院の歴史の再検討

1966年 開学80周年記念行事

3つの源流 1884 横浜バプテスト神学校、 1895 築地東京中学院、 1919 関東学院

1984 関東学院創立100周年記念行事

関係図書

関東学院百年史 1984 学校法人関東学院

関東学院一二五年史 2009

関東学院の源流を探る 2009 学校法人関東学院

恩寵の生涯 1966 新編1976 待農堂

坂田祐と関東学院 1973 有隣堂

「坂田祐日記」を読む 解説坂田創 2016 関東学院大学キリスト教と文化研究所

日本バプテスト宣教100年史 1973 日本バプテスト同盟

花島光男（はなじま みつお）

元関東学院中学校・高等学校教諭 同定時制課程教頭

元キリスト教学校教育同盟事務局主事

関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員

横浜プロテスタント史研究会世話人